



活動発表1

お ば ま し か と

小浜市加斗みどりの少年団

福井県



タイトル

わたしたちのふるさと

「加斗の学校林」

～未来へつなぐ 加斗の宝～

発表者

いその しゅん

磯野 舜さん

たなか るあ

田中 琉愛さん

まつい しょうたろう

松井 庄太郎さん

これから福井県「小浜市加斗みどりの少年団」の発表を始めます。テーマは、私たちのふるさと「加斗の学校林」未来へつなぐ「加斗の宝」です。よろしくお願いします。

私たちの住む小浜市は福井県の南部にあります。焼き鯖、小鯛の笹漬けなど食文化が豊かな土地です。また、若狭塗箸などの伝統工芸品も有名です。中でも私たちの住む加斗地区には海や山があり、自然豊かなところです。天然記念物に指定されている「蒼島」という島があります。加斗小学校では、高学年になるとシーカヤックに乗って、蒼島に渡ります。

私たちの学校林との出会いは、4年生の時の遠足でした。ネイチャーゲームなどを通して学校林の魅力に触れ、学校林のことが大好きになり、もっと知りたいと思うようになりました。

そこで、上級生から学校林の調査研究を引き継ぎ、「人の手による整備が必要」ということを知りました。そこで、私たちは

- ・混交林化をすすめ、学校林を豊かな森にすること
 - ・間伐で出た木材を有効利用し、みんなに愛される森にすること
- を目標に活動を進めることにしました。

混交林化は、針葉樹を間伐し広葉樹を植樹することで進めます。日光が森の中に降り注ぐようになること



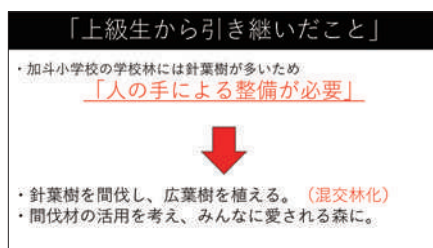
1



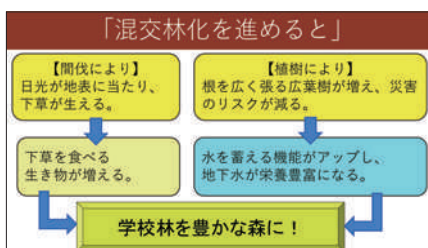
2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12

で、動植物が増えます。また、植樹により広葉樹を増やすことで災害のリスクが減り、地下水の栄養状態がよくなります。様々なメリットがあり、学校林を豊かな森にすることにつながります。

混交林化を進めると、森が水を長い時間蓄え、地下水の栄養状態が良くなります。栄養豊富な地下水が川に流れ出し、豊かな海をつくります。海の水が雲となり雨となって降り注ぐことで自然環境がさらに豊かになっていきます。

1回目の学校林調査では、水質検査とネイチャービンゴをしました。水質検査から、水はきれいではほぼ中性であることが分かりました。ネイチャービンゴでたくさんの魅力を見つけました。また、地面が固いこと、落ち葉のほとんどが針葉樹の葉であることに気づきました。

第2回の調査では環境省カテゴリーで準絶滅危惧種に指定されているアカハライモリ、希少な動植物であるヒバカリ、オオハングなどを発見することができました。学校林には貴重な動植物が生息していることが分かりました。

第3回の学校林調査では、間伐の見学をしました。とても迫力があり、驚きました。そのあと、みんなで協力して、間伐材を運び出しました。どう活用するかみんなで話し合いました。

また、植樹をする広葉樹の実も拾ってきました。

第4回の調査では、間伐・植樹をする範囲を考えました。条件として

- ・日当たりがいいこと
- ・地面がふかふかであること

を考えて決めました。

また、間伐を行う場所への道中に小川があったので、そこに間伐材を使った橋を作りました。とても丈夫な橋で、冬を超えた後もしっかりと残っていました。これで作業がスムーズになります。



活動発表1

わたしたちのふるさと「加斗の学校林」～未来へつなぐ加斗の宝～
小浜市加斗みどりの少年団(福井県)

学校林に生息している動植物と比較をするために蒼島の動植物も調べました。貴重なナタオレノキやムサシアブミなどを見つけることができました。どちらにも貴重な動植物が生息しており、ふるさと加斗の環境を守っていくことの大切さを、改めて感じました。

間伐材の具体的な活用方法を学ぶために「ツリーピクニックアドベンチャーいけだ」に行きました。間伐材を使って作られたアスレチックを体験し、バランスボードや様々な遊具を見つけることができました。具体的なアイデアを多く学ぶことができました。

「ツリーピクニックアドベンチャーいけだ」での学習を活かし、間伐材を活用して、おもちゃなどを作りました。加斗のみんなに楽しんでもらおうと考え、的あて、オセロ、ホールインワンゲーム、コマの台、いす、ジェンガの6つを作りました。

作ったおもちゃでイベントを考え、近くの保育園の皆さんと交流をしました。お礼の手紙と、次はこんな物をつくってほしいというリクエストをもらいました。もっと楽しんでもらえるように工夫していきます。

緑の募金活動にも参加しました。たくさんの方が募金をして下さり、温かい気持ちになりました。私たちの取組みが環境教育や森づくりに活かされることを願っています。今年度は5年生が秋に取り組みました。

私たちは、加斗小学校の学校林をもっと豊かな森にしたいと考え、混交林化を進めています。そしてそこで生まれた間伐材を活用することで、みんなに楽しんでもらいたいです。

現在の取り組みとして

①間伐と植樹を進めています。今年度は合計30本の植樹を行いました。

②拾ってきたどんぐりを育て、その苗を間伐したところに植える計画です。

③間伐材でおもちゃを作り、地域交流につなげていきます。

間伐をして、広葉樹を植樹することで、多様な生き物が住む森にしたいと考えています。

そして学校林の魅力を下級生や地域に発信し、この活動を継続していくことで、ふるさと加斗の自然を守っていくことにつなげていきます。

これで小浜市加斗みどりの少年団の発表を終わります。ありがとうございました。



活動発表2

きた がた

北方小学校みどりの少年団

岐阜県



タイトル

次の世代につなげていこう
豊かな森と揖斐川の清流を

発表者

つのだ はな 寺井 蒼旺さん
角田 覇奈さん
ところ りお 所 俐央さん

会場のみなさんこんにちは。私たちは北方小学校みどりの少年団です。これから私たちの活動発表を始めます。

私たちの町、揖斐川町は、岐阜県の西の端にあります。1,000mを超える高さの山々が連なり、町の面積の91%が森林です。谷汲地区には、「天皇林」と呼ばれている森があります。昭和・平成・令和の三代に渡って天皇陛下が御訪問された場所です。

私たちの学習で使っている森は、「じょうやま」と呼んでいる学校の裏山で、地域の方々に大切に管理されてきました。また、校区には日本一の貯水量を誇る徳山ダムをはじめ、複数のダムがあり、電気や飲み水を生み出したり、洪水を防いだりしています。

私たちは、これまで「つなぐ」ことを大切にして、活動に取り組んできました。中心となっているのは、1つ目は「苗木を育て、植樹する活動を、次へとつなぐこと」、2つ目は「森と水、生き物のつながりを知ること」です。では私たちが学んだことを詳しく紹介します。

まず、「植樹活動をつなぐこと」です。北方小学校では、苗木を育て植樹する活動を、これまで先輩から引き継ぎながら続けてきました。まず、前の年から受け継いだ「実のなる木」の苗木を、みんなで大切に世話をしてきました。

木は実を落としたり、動物に遠くまで運んでもらったりして、仲間を増やします。春には校庭にあるサクラ、秋





活動発表2 次の世代につなげていこう 豊かな森と揖斐川の清流を

には裏山で拾ったアベマキ、講師の方からいただいたミズナラ、クリ、コナラ等の木の実をまきました。発芽した苗木は、次の4年生に引き継ぎます。

次に、木の手入れです。苗木を植樹するだけでなく、きちんと人が手を入れることで、元気な森を育てることができます。

私たちが活動している「じょうやま」は、地域の方々が長年守り、育ててきた財産区の森です。木の伸び方や成長を見て、曲がっている木や痛んだ木をみんなで力を合わせて間伐しました。

また、いらない枝は切り落とさなければいけません。少し怖かったですが、高い所まで登り枝を落としました。この時にぶり縄やロープ上げの体験もしました。間伐や枝打ちをすることで、それまでとは違ったすっきりした林にすることができました。

私たちは揖斐川の上流にある「徳山ダム」へも行きます。徳山ダムは、揖斐川町や岐阜県だけでなく、愛知県の人々の生活も支えています。

しかし、このダムの建設のために、多くの木々が失われてしまいました。その場所の一つが徳山ダムの隣にある「コア山」です。ダムの水が漏れてしまわないように、ダムの中央「コア」の部分に粘土質の土を入れます。その土を取るために周りの山を掘り続けた結果、山に木がほとんどなくなってしまいました。私たちは「コア山が緑豊かになるように」という願いをもって、これまで、自分たちの手で育てた苗木を、毎年植樹してきました。

山の土はとても固くて、簡単に穴を掘ることはできません。しかし、苗木が根付くように、大きな穴を掘り、土をかぶせて肥料をまきました。

また、揖斐の山にはたくさんのシカがいるので、苗木が食べられないようにチューベックスという食害防止チューブを固定しました。私たちが育ててきた苗木が、大きくなって実をつける木になり、もう一度、「コア山」が緑のあふれる山になってほしいです。

次に、「森と水、生き物のつながりを知る」学習について紹介します。私たちが行っている植樹活動は、川のきれいな水や、そこにすむ生き物とつながっているのです。

森の木は、秋にたくさんの葉を落とします。それが毎年繰り返されて、たくさん重なり合ったミルフィーユのようになります。ここを通ることで、雨水がきれいな水に変わります。

私たちは、木や草が生えている山と、生えていない山では、流れ出す雨水にどんな違いがあるか、実験しました。



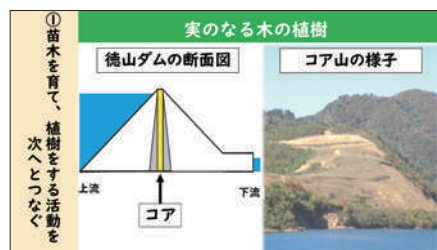
7



8



9



10



11



12

北方小学校みどりの少年団(岐阜県)



林が育むきれいな水の川でしか生きられないことを教えていただきました。

これらの体験や学習を通して、私たちは、森を守り育てていくことの大切さと、森が揖斐川の水や生物とつながり、自然を支えていることが分かりました。

私たちの活動が成果を出すまでには、とても長い年月がかかります。これからも、苗木を育て、植樹し、森を育てる活動を、伝統として次につないでいきたいと思います。

50年後、100年後、今と変わらないきれいな水があるように、豊かな山々に囲まれた揖斐川町であるように、未来へつなごう！そんな私たちの願いをこの会場の皆さんに発信したいと思います。

これで北方小学校みどりの少年団活動発表を終わります。ありがとうございました。



13



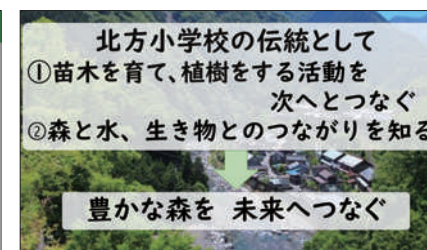
14



15



16



17



18



活動発表3

わんぱく題楽緑の少年団

静岡県



タイトル

里山での体験を通じて 大地とつながる「命」を学ぶ

発表者

たなか せら ためすえ りお
田中 晴来さん 爲季 莉央さん
やざき きよひこ
矢崎 淳彦さん

皆さん、こんにちは。私たちは静岡県「わんぱく題楽緑の少年団」です。よろしくお願いします。

私たちわんぱく題楽は、日本一高い富士山と、日本一深い駿河湾のある静岡県の中心地、静岡市にある里山で活動しています。人々の暮らしと森が共にある、生きた自然そのままの里山です。

2024年度は、県内の小学生22名とスタッフ7名、地元農家さんや地域の方のサポートのもと活動しています。

食べることは生きること

森・川・田んぼ・畑・生き物、すべてが私達につながっていること

「できた!」「嬉しい!」「楽しい!」を仲間と分かち合うこと

この3つを活動開始から、23年目を迎えた今も大切にしています。

私たちの活動拠点を紹介します。まずは畑、「ごちそう畑」です。私の心に残っている畑での活動を3つ紹介します。

“どんどこで行こう!”
里山での体験を通じて大地とつながる「命」を学ぶ
わんぱく題楽 緑の少年団 (静岡県静岡市)



1

食べることは生きること
森・川・田んぼ・畑・生き物、すべてが私達につながっている
「できた!」「嬉しい!」「楽しい!」を仲間と分かち合う



2

ごちそう畑は「大地の恵み、命の循環」を実感できる場所



4月：野草つみ
たんぽぽ、ヨモギ、スギナ...
春は野草のごちそうもいっぱい!

3

生き物いっぱい!「ごちそう畑」
元気で、おいしい野菜をたくさん育てています!!



4月：初めての農作業
株元の土を耕しました!7月には収穫して
食べました。

4

お米作りには様々な作業があります。
10月黄金色にこうべを揺れる稲穂!そろそろ稲刈りです。



10月「稲刈り」と「はぎかけ」
刈った稲を竹の竿にかけて天日で干します。

7

6月みんなで力を合わせて「田植え」



6

お米1粒からはじまったお米作り。
田植え後1ヶ月で、たくましく成長した稲を観察します。
田んぼの水の中にはオタマジャクシやカエシ、アメンボが暮らしています。時々、アオサギやカモが虫を食べにやってきます。

もみすり!
もみすり機とお米を分けること。野球ボールでゴリゴリ!



脱穀!
脱穀は稲の穂からお米を取る。牛乳パックの中にブチと取れて、楽しいよ!

白いお米や、お餅になった!
田植えから6ヶ月、一粒のお米はみんなでお米で飯やお餅になりましたよ!

8



1つ目は春の野草つみです。4月に行う行事で、畑の中に生えた食べられる野草と食べることでできない野草を見極めてつんでいきます。例えば身近によく見かけるタンポポやスギナ。天ぷらにして食べると、サクサク、ぱりぱりして、とってもおいしいです。

2つ目はサツマイモのつる挿しです。6月に行う行事で、サツマイモのつるをていねいに挿していきます。秋には長く伸びたつるをたどって土を掘ると、サツマイモがたくさん出てきて、まるで、宝さがしのようなのです。

3つ目はそらまめの種の植え付けです。11月に行う行事で、「お歯黒」という黒い部分を土に差し込み、種全体は土から少しだけ出す、という独特のまき方をします。

他にもじゃがいも、玉ねぎ、とうもろこし、枝豆、大根、人参など、色々な野菜を育て、夏は、畑の野菜で作るわんぱくカレーが楽しみの一つです。

野菜作りの体験をとおして市場やスーパーで販売されている野菜を作ってくれている農家さんたちへの「感謝の気持ち」、そして何より自分たちで野菜を作る「楽しさ」を得られました。

私たちは、一年を通して米作りもしています。

1月は「春田打ち」をします。稲刈りの後、山にかえった田んぼの神様を田んぼにお迎えする神事です。

6月上旬には、ドローリンピックをします。団員みんなで田んぼの中を思い切り走り回り代かきをします。

そして6月中旬には、田植えをします。稲を植えた列が曲がらないように、ていねいにやることを心がけています。

10月中旬になると、稲刈りをします。



活動発表3

里山での体験を通じて大地とつながる「命」を学ぶ
わんぱく題楽緑の少年団(静岡県)

令和4年度の台風15号が来たときは、稲が倒れてしまい、みんなで協力して起こしました。そして、なんとか、稲刈りができました。私は台風で稲が倒れるなんて知らなくて、農家さんは台風などの災害で大変なことがたくさんあるんだろうと思いました。

10月下旬には、「脱穀」と「もみすり」をします。そのお米を、羽釜で炊いたり、お赤飯を蒸かしたり、おもちをつきます。自分達で作ったお米やおもちは、特別に美味しく感じます。

わんぱく題楽の山や川での活動を紹介します。

私が一番好きな活動は、7月に行う川の生き物調べと源流探検です。川の生き物調べではみんなで川に入って、そこにいる生き物を観察します。今年はカニやヤゴ、ドジョウ、アブラハヤなどを見つけました。絶滅したと思われていた「ホトケドジョウ」をつかまえてとても驚きました。私たちの田んぼや、畑を潤す川にはたくさんの生き物が暮らしていることがわかり、うれしかったです。

源流探検では、小さな沢を歩いてたどって行きました。川の始まりは森の中。森に降り注いだ雨は、森に蓄えられ、少しずつ地中から湧き出し、その一滴のしずくが集まり川の流れとなります。その水がたくさんの生きものや植物の命をはぐくみ、農作物を育て、海へと流れていきます。そのサイクルの中に私たち人間が存在して、他の生きものと同様に水の恩恵を受けていることに気がつきます。自ずと水を大切にしよう、汚してはいけないことを感じるようになります。

また、2月には、山にある木や葉っぱを使ってかくれ家を作ります。仲間と相談して、木や竹を切ったり、木の実を集めてきたり、かっこよくなるようにみんなで工夫します。自分たちで作ったかくれ家が完成すると、とてもうれしいです。

近年、SDGsという持続可能な開発目標が注目されています。その中に「安全な水」、「海や陸の豊かさを守ろう」という目標があります。放置された竹林の竹の活用や、手作りの堆肥の利用、川の生態系を知る活動は、その目標達成のための第一歩だと思います。

緑の少年団での様々な活動を通して学んだ自然の大切さを忘れることなく、自然の恵みに感謝して、今ある自然を守り、次の世代につなげていく活動を、これからも楽しく続けていきたいと思っています。

これで「わんぱく題楽緑の少年団」の発表を終わります。



9



10



11



12



活動発表4

かたの
形埜みどりの少年団

愛知県



タイトル

「緑はふるさと形埜の宝」
～ササユリ保護・林業体験・
間伐材 活用等を通して～

発表者

くらはし あかり
倉橋 朱里さん

くらはし みさき
倉橋 岬さん

形埜小は、徳川家康の生まれた岡崎城から20km東北、スギやヒノキの人口林が2/3を占める額田の山間地にあります。学校は小高い丘の上に建ち、幾種もの樹木に囲まれています。全校32名、地域の方との交流も豊かです。

私たちは「緑はふるさと形埜の宝」と考え、「緑に生かされ、緑を生かし、緑と共に生きる」をテーマに環境学習に取り組んでいます。

今日は、学校周りの森林や、地域の方と活動して学んだことを発表します。

形埜小の周りは秋に赤や黄色に美しく葉が染まり、1・2年生は生活科で秋見つけの探検をします。季節を感じたものを写真撮影したり、落ち葉でお面を作ったり、並べて絵にしたり、木の実でこまを作ったりして、保育園の子とも遊びます。

おかげさっ子展という美術展では、木の実・葉・枝で作品を作っています。木の温もりがあり、いい味があります。昨年度は開校150周年を迎え、傷んだ樹木を使って森林組合の方にペン立てのキットを作っていただきました。私たちはキットに入れる木の実を集めて学区の皆さんに配りました。



1



2



3



4



5



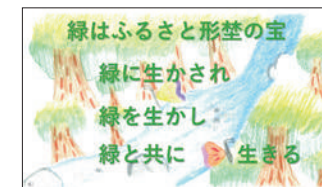
6



7



8



9



10



11



12



活動発表4

「緑はふるさと形埜の宝」 ～ササユリ保護・林業体験・間伐材 活用等を通して～

6月には美しいササユリが咲きます。1・2・3年生は「ササユリ遠足」で学区の群生地に行きます。小学校の山の斜面でもササユリが20本くらい育っています。

3年生は年間を通してササユリから学びます。5月新芽観察、6月花の観察、11月種取り、球根掘り、土づくり、12月は種蒔き・球根植えをしています。

3年前にはシカが花を食べてしまいました。3年生だった私たちはショックを受け、地域で平成12年から保護育成に努めてこられた「かたのササユリの里育成会」に相談して、学校の山の斜面をササユリ園として整備をしました。地域の方が金属の柵や歩道を整備してくれました。3年生も土のうを作って参加しました。

私たちはササユリがさらに増えるよう、形埜保育園の子と種や球根をプランターに植えたり、学校の山の斜面に球根を植えたりしました。ササユリは種から花が咲くまで7年かかります。先輩が育ててきたササユリを引き継ぎ、育てたいです。

さらに、昨年5年生だった私たちは、このような活動を多くの方に知ってもらおうと考え、学芸会で演じました。ぼくはササユリの精霊の役で、お招きした育成会でがんばってきた方を紹介させていただきました。

形埜小では、5年生で森林学習を行います。間伐ボランティアや、森の健康診断出前隊の方と学校林に入って、木の種類、太さ、高さ、込み具合、日当たり具合を観察して、森の健康状態を判断しました。学校の山は間伐の必要があることが分かりました。

間伐体験学習では、これくらいの太さ（15～20センチ）なら、交代でやれば簡単かと思ったのですが、そうはいきませんでした。ロープで引っ張って倒し、運び出すときにも重いし、場所が狭くて動かしにくくて大変でした。木の直径を測ったり、トラックに載せたりすることもしました。トラックに載せた17本の間伐材の値段は、あんなに大変な作業だったのに、1,759円と分かりショックでした。大変な労力だし危険も伴うのに、儲けが少なく、働く人が減ったことや、そのせいで整備されない不健康な森がたくさんあることも知りました。



13



14



15



16



17



18



19



20



21



22



23



24



25



26



27



28

形埜みどりの少年団(愛知県)



昨年卒業した先輩は学芸会で創作劇「額田の森を守る」を作りました。みんなで意見を出し合って、「形埜の宝である“額田の森林”の危機」について、5年で学んだことを劇にしました。10～50年後の形埜や自分を想像しながら、地域の方に「額田の森を大切に守ってほしい」という思いを積極的に伝えることができたと思います。見守り隊の方からは「涙が出てきた」と言われ嬉しかったです。

お世話になったクラフト工房の方から額田の間伐材を購入し、卒業制作をしています。

・替え歌「大好き形埜小」の歌詞を大きな板に焼き付けました。

・消毒の台です。

・教室のマーク表示です。

・「日近城」に登る山道の表示を作り直して「守る会」の方に付けてもらいました。

・地域のご老人にも、「卒業制作ロード」を作ってもらいました。また、運動場に輪車の練習棒を作ってもらいました。

間伐材を使って何かを制作するには、地域の方の手助けが欠かせません。地域の方も活躍の場に呼んでもらい、木の温もりにふれることができ嬉しかったと言ってくれました。

これからも「地域のためにできること」を考え、考えただけで終わらず行動にしていこうと思います。

ふるさと形埜の宝は豊かな自然ですが、それを守り伝える「地域の方の支え」も宝だと思います。私たちは、自分たちも「ふるさと形埜を守る大人」になれるよう、今できることを一生懸命にやっていきたいと思っています。

以上、形埜小の取り組みを紹介させていただきました。



29



30



31



32



33



34



35



36



37



38



活動発表5

ささぐり

はぎのお

篠栗小学校萩尾分校 緑の少年団

福岡県



タイトル

萩尾の「宝」で 地域を盛り上げ隊！

発表者

いそみち きさと
儀道 樹里さん

こうまつ たまみ
幸松 珠美さん

皆さん、こんにちは。私たちは篠栗町立篠栗小学校萩尾分校緑の少年団です。団員は、1年生2名、2年生1名、3年生1名、4年生2名、5年生2名、6年生2名の10名です。これから、私たちが緑の少年団として活動していることについて発表します。

篠栗町は、福岡県の中央部に位置し、福岡市と隣接する地域のひとつです。私たちの萩尾分校は、鉾立山の中腹にあり、標高300mのところにあります。私たちが暮らす篠栗町は、総面積の70%が山林の緑豊かな町です。「心の湯治場 森林セラピー基地 篠栗 森の鼓動が聞こえるへんろの郷(さと)」として、町をあげてアピールしています。ウォーキングコースやキャンプ場をはじめとする、レクリエーション施設はもちろんのこと、篠栗四国霊場や歴史的遺産がたくさんある町です。

それでは、萩尾分校緑の少年団の活動について、説明します。

【1, 緑いっぱい萩尾】

総合的な学習の時間や、生活科の時間を使って、育てたい季節の野菜を決め、一人ひとり責任をもって育てます。畑に肥料を混ぜて耕し、畝作りから自分たちで行います。育てやすさや、収穫量の情報をもとに、何を育てるか決めます。苗を植えたら、水やりや、草抜きをしたり、乾燥や病害虫から苗を守るしきわらをしたりして世話をします。欠かさず世話を続けることで、収穫できる野菜が増え、おいしい野菜ができます。野菜は、夏野菜と冬野菜の年2回育てています。世話をし、大きくおいしい野菜がとれたときは、うれしい気持ちでいっぱいになります。野菜を育てる活動を通して、植物の生長の学びとともに、命をいただくことへの感謝の心を育むことができました。



【2, サツマイモの栽培】

地域の方から畑を借りて、サツマイモを育てています。5月に畑を耕し、畝作り、マルチ張り、苗植えなど、10人で手分けをして行います。畑が広く、作業は大変ですが、大きなサツマイモの収穫に向けて、全力で準備していきます。イモの苗がマルチについてしまうと、葉が日に焼けてしまうので、梅雨入りするまでは、苗がピンと立つように、土日も欠かさず水やりをします。秋に収穫です。2つの畑から200個以上のサツマイモが収穫できます。収穫したサツマイモは、地

域の方々へ、日頃の協力やご支援への感謝の気持ちの手紙を添えて、手渡しで配ります。イモと手紙をもって行くと、地域の方々が喜ばれ、栽培へのねぎらいの言葉をいただきます。楽しみにしてたよ。お世話大変だったね。などの言葉を聞くと、また来年も世話を頑張ろうという力がわいてきます。この栽培を通して、分校の活動を知ってもらうだけでなく、地域の方からがんばりのエネルギーをもらっています。

【3, もち米栽培】

地域の方の田んぼを借りて、もち米栽培を行います。田おこしや代かき、水温調整の水位管理は、地域の方の力を借りますが、苗は、私たちや保護者で、植えていきます。たてよこを揃えることや、植える深さなどのコツを、上級生から下級生に教えていくのが分校の伝統です。7月になると、粟や稗がじゃんじゃん生えてくるので草取りです。田んぼの中の作業は大変ですが、米の生長を願い、心を込めて世話していきます。秋になると収穫です。機械を使わず、鎌を使って手刈りで行います。収穫した稲は、体育館に干してじっくりと乾燥させ、脱穀、袋詰めまで自分たちでします。去年は60kg近く、精米することができました。収穫したもち米を使って、12月に地域の方々と一緒に餅つき大会をします。蒸した米をつぶしてから餅をつく、つき方の手順や、餅をのぼしながら表面をなめらかにする丸め方のコツを地域の方から、教えてもらいます。私たちの元気が、地域の方々の笑顔につながっていることを感じて、地域の一員としての思いが強くなります。また、もち米の稲藁を使って、しめ飾りづくりもしています。地域の方をゲストティーチャーとしてお招きし、しめ縄のつくり方だけでなく、萩尾地区





活動発表5

萩尾の「宝」で地域を盛り上げ隊！
篠栗小学校萩尾分校緑の少年団(福岡県)

に伝わる正月飾りにこめられた意味も教えていただきました。藁のない方が難しかったですが、自分だけのしめ飾りを作りあげました。

【4, みどりの日の活動】

みどりの日は、毎月3のつく日の掃除時間や、休み時間を使って、木々や草花の世話する活動です。花や実をつけて楽しませてくれる植物たちに、お礼の気持ちを込めて、草抜きや肥料やりをします。中庭には梅や晩白柚(ばんぺいゆ)が植えられています。梅の実をつけ込み、梅ジュースを作って、地域の方と一緒に活動するときなどにも、飲んでもらっています。他にも、原木しいたけの栽培もしています。ゲストティーチャーとして元分校の副校長先生をお招きし、原木への菌打ちの仕方を教えてもらいます。暑い夏を2回越えると、しいたけが出てきます。自分たちで菌打ちして育てたしいたけは、味が濃く、とてもおいしいです。

【5, お宮掃除】

毎月1日に、地域のシニアクラブの方々がお宮の清掃活動をされています。子どもたちも、毎月15日に行い、神社をきれいにし、地域の方々と願いを共有する方法として、取り組んでいます。様々な場面で、地域の方々から感謝の言葉をもらいます。この言葉が、地域の一員として、私たちががんばれるエネルギーになっています。

【6, 森林環境学習】

毎年、森林環境学習として、ふくおか森林インストラクター会の方々をお招きして、森の木々や草花、生き物などの自然について学んでいます。私たちが、これから自然とどのように関わり、どのように行動していくとよいかを考える機会となっています。

【7, 緑の少年団の活動を通して】

緑の少年団の活動を通して、身の回りのたくさんの自然と関わることで、緑豊かであることのありがたさを実感することができました。また、自然とのふれあいや、地域の方々と一緒に活動を行うことで、地域のよさを感じることができ、地域への愛着が一層強くなりました。これからも私たちが育ててくれる、萩尾地区の自然と、地域の方々とのつながりを大切にしながら、自然に対して、さらに地域の一員として、できることを積極的に実践していきます。

これで萩尾分校緑の少年団の活動報告を終わります。ご静聴ありがとうございました。



特別講演



タイトル

エベレストへの挑戦と 環境問題

講師

アルピニスト

のぐち けん
野口 健氏

プロフィール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1999年3度目の挑戦でエベレストの登頂に成功し、10年の歳月をかけて7大陸最高峰世界最年少登頂記録を25歳で樹立する。

1999年 エベレスト登頂 その後、以前から気にかけていたエベレストのゴミ問題を解決するために、4年連続世界各国の登山家たちと5000m～8000mの清掃活動に尽力する。

一方、富士山のゴミの多さに心痛めた野口は、2000年から「富士山が変われば日本が変わる」をスローガンに富士山清掃活動を精力的に行う。

2006年からは、富士山・エベレスト同時清掃活動を実施し、エベレスト側の隊長を野口が務めている。

2016年4月、熊本地震が発生、体育館などの避難所に入れない人達のために避難所としてのテント村を運営。2023年2月のトルコ大地震、2024年1月の能登半島地震では、寝袋支援プロジェクトをたちあげ、避難所に寝袋などを支援した。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
登山家として環境活動家として世界で活躍されている野口健さんを講師としてお迎えしました。「エベレストへの挑戦と環境問題」と題し、エベレストや富士山への登山を通して、野口さんがどのように環境問題に取り組むようになったかなど、豊富な実体験を交えてお話いただきました。



F 講評



公益社団法人 国土緑化推進機構
専務理事

おりた ひろし
織田 央

【全体講評】

本日発表していただいた5つの緑の少年団の皆さん、ありがとうございました。どの団も地域の特色や自然を活かし、地域の方々と一緒に工夫を凝らして活動している様子がよくわかり、とても感心させられました。

継続は力なり、と言いますが、先輩方から活動を受け継ぎ、それをまた後輩たちにつなげていこうという熱意が発表から伝わってきました。また、皆さんの活動を見守り、指導して下さった先生方や地域の方々の温かい気持ちも感じることができました。

豊かな森林は、きれいな水や空気、美しい景観、木材など多くの恵みを私たちに与えてくれます。また、災害や地球温暖化を防ぎ、多様な生物を育むなどの役割を担っています。

今日この会場に集った皆さんがリーダーとなり、全国の緑の少年団の皆さんと手を携え、今後も森や自然の大切さを学び・育む活動を継続していただくことを期待して、全体の講評といたします。

.....

活動発表1 小浜市加斗みどりの少年団 福井県

上級生の皆さんの調査研究を引き継いで学校林の現状を詳細に把握し、学校林において針葉樹を間伐し、広葉樹を植樹することで、生物多様性を高め、災害に強い森を目指すという結論に到達した点、よく考えているなあ、大変しっかりしているなあと感心しました。

団員の皆さんが、蒼島への遠足で実感した動植物相の豊かさと、学校林の状況を比較し、環境を守る活動の根拠として共有している点、水質検査や動植物調査など、科学的な根拠に基づいた活動を大切にしている点も、高く評価したいと思います。

保育園にも呼びかけて交流イベントを行うなど、他の世代への働き掛けも積極的です。

これからも団員の皆さんの柔軟な発想によって楽しい活動になることを期待しています。

活動発表2 北方小学校みどりの少年団 岐阜県

豊かな自然に恵まれ、天皇林や徳山ダムを有する特徴的な地域で、「つなぐ」をキーワードに、大変有意義な活動をされています。

間伐や枝打ち体験を通じて、元気な森を育てるためには、人が手を入れる必要があることを学んでいる点、先輩から後輩へ繋ぎながら、苗木の育成から緑化までの長期的な活動を継続して行っている点、実験や自然観察を通じ、自然科学的な知識に基づいて、森の働きや生態系についての学習を深めている点、これらの点は高く評価されます。

未来へつなぐ活動に積極的に取り組む団員の皆さんの熱意と責任感が伝わってきました。これからも、つなぐ気持ちを大切に頑張ってください。

活動発表3 わんぱく題楽緑の少年団 静岡県

地域の方々と一体となった活動を通じて感じたことについての発表でしたが、興味深く聞かせていただきました。団員の皆さんが生き生きと活動されている姿が目につかぶようで、大変ほほえましく、また頼もしく思います。

野菜栽培、米作り、生き物調べや源流探検といった、多岐にわたる活発な活動を楽しみながら行い、大きな学びを得ています。これから直面するであろう地球規模の問題についての理解が、身近な自然環境を知ることや様々な体験に裏打ちされていることが伝わってきました。これからも少年団の活動で得た多くの気づきを忘れずに、地域の大切な主役として頑張ってください。

活動発表4 形埜みどりの少年団 愛知県

身近な自然観察に始まり、団員たちが熱意をもって、学校林活動やササユリの保護活動に取り組んでいる様子が伝わってきました。地域住民やボランティア組織との連携が深く、大人顔負けの活躍をする一方、周辺の保育園との接点も大切にしており、緑の少年団の活動が地域住民の交流の核にもなっている点は、他の模範となるものです。学校行事で自分たちの学習成果を演劇として発表するなど、地域の方々への発信も積極的に行っている点も高く評価されます。

是非これからも、「緑はふるさと形埜の宝」の気持ちを持って、地域の皆さんとともに多角的な学習を深めて、持続可能な地域づくりに貢献してください。

活動発表5 篠栗小学校萩尾分校緑の少年団 福岡県

年間を通じて、野菜栽培やサツマイモ栽培、もち米栽培を行い、農産物生産の大変さを学び、責任感を養っておられることは、大変意義深いものです。

これらの活動を地域の皆さんと一緒にやって行うとともに、収穫の喜びを分かち合い、お互いに感謝の気持ちを伝える姿に強く感銘を受けました。このことが、地域の明るい雰囲気づくりに大きく貢献しているものと確信します。

さらに、森林環境学習を通じて、自然についてしっかり学び、これからの自然との関りを考える機会を設けていることも高く評価されます。

これからも、地域の皆さんの協力を得ながら活動を活発に行い、自然への感謝の気持ち、地域への愛着を育んでもらいたいと思います。